

## 二人の魔法使い

1 女が 家の戸口に立っています  
柳の小枝のように まっすぐに  
鍛冶屋が 金槌を手に持って  
少し離れて立っています

2 「娘さん  
赤いドレスに着がえなさい  
明日のこの時間が来るまでに  
おまえさんの処女はいただき」

3 「あつちへ行つて 真つ黒な鍛冶屋さん  
どんでもない考えよ  
こんなに長く守ってきた  
わたしの処女を奪おうなんて」

4 それから 娘は手をあげて  
大地に誓って言いました  
「箱一杯の黄金をくれると言ったつて  
鍛冶屋の妻にはなりません

5 「真つ黒な老いぼれ鍛冶屋に  
処女をわたすくらいなら  
いっそのこと 死んで  
墓に埋められたほうがまし」

6 けれど 鍛冶屋も手をあげて  
神に誓って言いました  
「箱半分の黄金もやらずに  
おまえを尻軽女にしてみせよう」  
待て待て 女  
女のあとを追いました  
どんなにプライド高くても  
老いぼれ鍛冶屋が おまえの情夫おとこ

7 すると女は キジバトになり  
空高く舞いあがりました  
男も キジバトになり  
二羽の雌雄めいよろしく飛びました  
待て待て 女  
女のあとを追いました  
どんなにプライド高くても

老いぼれ鍛冶屋が おまえの情夫

8 女は ウナギに身を変えて

むこうの小川で泳ぎました

男は まだらのニジマスになり

逃げるウナギを追いました

待て待て 女

女のあとを追いました

どんなにプライド高くても

老いぼれ鍛冶屋が おまえの情夫

9 それから女は 雌のアヒルになつて

池で水を掻きました

男は 赤いときかの雄のアヒルになつて

雌をうろたえさせました

待て待て 女

女のあとを追いました

どんなにプライド高くても

老いぼれ鍛冶屋が おまえの情夫

10 女は 野ウサギに身を変えて

丘を走つて逃げました

男は 脚の速い猟犬になり

勇ましく追いかけてました

待て待て 女

女のあとを追いました

どんなにプライド高くても

老いぼれ鍛冶屋が おまえの情夫

11 それから女は 元気な葦毛の雌馬になり

むこうの窪地に立ちました

男は 金ぴかの鞍になり

馬の背中に乗りました

ああ ついに男は女をつかみ

おとなしくしろ と言いました

どんなにプライド高くても

老いぼれ鍛冶屋が 女の情夫

12 それから女は 真っ赤に焼けた鉄板になり

男は パンケーキになりました

女がどんなにもがいても

とうとう 鍛冶屋の情婦でした

ああ ついに男は女をつかみ  
おとなしくしろ と言いました  
どんなにプライド高くても  
老いぼれ鍛冶屋が 女の情夫<sup>おとこ</sup>

13 女は 舟に身を変えて

大海原に乗り出しました  
男は 船尾に釘を打ち込みました  
舟はもう 動けません  
ああ ついに男は女をつかみ  
おとなしくしろ と言いました  
どんなにプライド高くても  
老いぼれ鍛冶屋が 女の情夫<sup>おとこ</sup>

14 ついに女は 絹の肩掛けになり

ベッドいっぱい ひろがりました  
男は 緑のカバーになつて  
女の処女をものにしました  
ああ ついに男は女をつかみ  
おとなしくしろ と言いました  
どんなにプライド高くても  
老いぼれ鍛冶屋が 女の情夫<sup>おとこ</sup>